

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年3月18日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0872000963		
法人名	株式会社 メディカルアシスト		
事業所名	グループホーム 楓	ユニット名	西側
所在地	〒305-0041 茨城県つくば市上広岡503-8		
自己評価作成日	平成25年9月27日	評価結果 市町村受理日	平成26年3月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0872000963-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年11月22日	評価機関 決 済 日	平成26年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

- ・今までの生活状況が損なわれぬよう家庭的な環境雰囲気を提供しています。
- ・地域の方々との交流や継続的な行事の開催などを行うことで、利用者様方の社会参加も活発に行われています。
- ・地域の行事が少ないため、楓の行事を地域の行事として取り入れて頂き地域交流を図っている。
- ・入浴に入って頂くため、入浴剤等を変えて、楽しい入浴を演出している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は車の往来が激しい道路に面した場所に立地しているが、事業所脇の空き地に桜が植栽されているため春には桜の花を見て楽しんだり、敷地内の自家菜園で様々な野菜を栽培したりしているほか、事業所の池では鯉を飼育しており、自然にふれながら四季の移り変わりが感じられる環境となっている。

管理者は①苦情・教育②広報③事故防止④身体拘束・虐待防止⑤食事⑥環境整備⑦行事⑧物品・倉庫の8つの委員会を設けて職員に担当を割りあてることで、事前に外出の下見をしたり、第3日曜日を「環境整備の日」として、普段できないエアコンや空気清浄機のフィルター掃除、電気の傘掃除をしたりするなど、それぞれの委員会が自発的に企画し、利用者が楽しく快適に過ごせるよう支援している。

職員は利用者一人ひとりの思いや要望を把握するため、利用者の目線に立って考えたことを「情報シート」に記入し、全職員で話し合っている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りの際に理念の復唱を行い実践につながるよう常に心掛けている。また、スローガンを掲げ職員と管理者の意識統一を図っている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた法人の理念と、管理者と職員で作成した事業所独自のスローガンを事務所に掲示するとともに、職員の名札の裏に記載して意識付けをしている。管理者と職員は毎朝の朝礼時に理念とスローガンを唱和して共有し、実践に結び付けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との交流を密に行えるよう、行事への招待などをし、顔なじみの関係を作れるよう努めている。また、閉じこもり高齢者への行事参加を呼び掛けている。	利用者や家族等、地域住民との交流を目的とした事業所主催の納涼祭を毎年開催し、家族等や地域住民を招待して利用者が地域住民と交流ができるよう支援している。 納涼祭では筑波大学生による斬桐舞踊やボランティア団体によるフラダンス、和太鼓演奏、ガマロ上などの催しが行われているほか、プロによる焼きそばやかき氷などの屋台が出店され、200人程の参加を得ながら盛大に開催し、地域との交流の場となっている。 毎月日本舞踊やフラダンス、歌謡曲などのボランティアを受け入れ、利用者が地域とつながりながら暮らせるよう支援している。 利用者と職員はオクラやひまわりの種から苗を作り、近隣の保育園へ苗を贈呈しているほか、保育園からはお遊戯会に招待されるなどして交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々の相談窓口になれるよう、日々の業務や研修の報告を広報などを通して行い気軽に足を運んで頂けるようにしている。また、認知症キャラバンメイトを活かし、地域に認知症の方への理解をして頂けるよう働きかけている。9月より認知症よろず相談を行っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	小規模多機能型との合同の運営推進会議を3ヶ月に一度行っているが、地域の方や行政の方との話し合いの中でサービス向上に活かせるものを取り入れている。又避難訓練等を計画し地域の方々に参加して頂き評価や感想を話して頂いている	運営推進会議は家族等の代表や市職員、区長、民生委員、管理者、職員で3ヶ月に1回開催している。会議では利用者の生活の様子や運営状況の報告を行うとともに、課題などを話し合い、委員から出た意見や助言をサービスの質の向上に活かしている。区長から「地域住民にも認知症の知識を持ってもらい、認知症の人との係わり方を理解してもらうために、管理者や職員が地域住民を対象とした講義を行ってはどうか」との提案を受け、地域の集会議場で認知症に関する講義を行っている。運営推進会議の議事録を作成し、会議の内容を詳細に記載しているが、出席者名を記載するまでには至っていない。	運営推進会議に誰が出席したのかがわかるよう、出席者名を記録に残すことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことや報告などをすぐに伝えられるような関係作りをしている。連絡を取ることで、こまめな意見交換にもつながっている。つくば市連絡会へも月1度参加している。	管理者は要介護更新認定の申請などで毎月市担当者を訪問し、運営状況や空き状況を報告して協力関係を築くように取り組んでいる。 市担当者からは介護保険制度の改正や研修、お知らせなどが郵送で届くほか、管理者は介護保険制度の疑問点などを相談するなどして日頃から協力関係を築いている。 月1回市が開催するグループホーム連絡会に出席するとともに、市からの依頼で地域住民の認知症相談窓口として、事業所に「認知症よろず相談窓口」を開設するなど、日頃から協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルに基づき、業務担当委員を設置し、拘束をしないケアの実践を行っている。また、内外研修も行っている。 施錠に関しては、利用者様の危険回避のために行う場合もあるが、なるべく施錠しない工夫をしている。	身体拘束や行動制限を行わないことを契約書に明記するとともに、全職員は身体拘束の内容とその弊害を理解している。 月1回の全体ミーティング時に身体拘束の状態になっていないか確認するとともに、身体拘束虐待防止委員会を設置し、担当者が中心となって研修を実施している。 事業所周辺は車の往来が激しいため、利用者の安全を考慮し、家族等の了承のもと玄関を常時施錠しているが、利用者が外へ出たい時には職員が同行するなどの支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内外の研修に参加し、伝達研修や勉強会を設けている。マニュアルを身近な所へ置き、虐待防止のために確認も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・ケアマネなど知識のあるものが勉強会の中心となり職員に伝えている。ご家族へは、ご相談があった場合に活用できるよう資料等を備えている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約及び解約の際は、分かりやすく説明を行うよう心掛けている。疑問や質問に対しては、安心して頂けるよう迅速に対応し、解決するようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来所された際は、こちらから声をかけ、近況報告を行い意見や希望をひき出すようにしている。ケアプラン更新時などご意見を聞きケアに反映している。	管理者や職員は利用者との日々の会話から意見や要望を聴いているほか、家族等からは来訪時や電話連絡時に意見や要望を聴くように努めている。 利用者から「映画館に行けないので事業所で映画観賞をしたい」との要望を受け、本格的な映画が観賞できるよう、プロジェクターを購入している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや職員自身の自己評価を行ってもらい、問題点や改善に向けての意見交換をしている。必要に応じて、運営者会議を行う。	管理者は月1回の全体ミーティング時に職員の意見や提案を聞く機会を設けるとともに、休憩時にコミュニケーションを図り、日頃から何でも言い合える関係づくりに努めている。 管理者は職員から出た「夏場のクーラーでの冷え防止や冬場の保温用にひざ掛けがあった方がよいのでは」との意見を取り入れ、利用者用にひざ掛けを購入するなど、職員の意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修や勉強会の場を提供したり、やりがいを持って働くことが出来るよう、代表者が職員個々と話し合うことを大事にしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた研修参加や勉強会を行っている。研修に参加した職員は報告書を提出し、内部研修を開催する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	毎月、つくば市内の地域密着型事業所間の連絡会に参加し情報交換やお互いに見学などを行い、サービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者やケアマネージャーにより本人の希望要望等伺いながら安心して利用して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	随時相談に応じることを家族に話している。運営推進会議にて利用者様の家族の方にも参加して頂き話し合いの出来る場を設けているが、家族からの意見などは聞けない。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の現状を見極め在宅サービスや入所の判断を行っている。 また、つくば市地域密着型サービス連絡会より得た（空き）情報をもとに本人と家族に提供している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者が一緒に炊事・洗濯を行い利用者の昔話を職員が聞いたりコミュニケーションを図り喜怒哀楽を共感している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居された方はお客様という事を忘れず、その中で家族に対し話しやすい雰囲気作り、家族の悩み等相談にのっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで、行きつけだった、美容室など継続できるようご家族に協力してもらい支援している。また、友人が面会に着やすいよう、手紙などを送っている。	職員は家族等から話を聞いたり、利用者との日々の会話の中から、利用者が築いてきた馴染みの人や場所を把握するよう努めている。 職員は利用者の友人や親戚が来訪した際にはお茶を出し、居心地よく過ごせるよう努めているほか、馴染みの人と手紙のやり取りができるよう代筆をしたり、電話を取り次いだりして、今まで築いてきた関係が途切れないよう支援している。 利用者が墓参りや馴染みの店などに行きたい場合は、電話などで利用者の希望を家族等に伝え、家族等の協力を得ながら馴染みの人や場所との関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないように職員が利用者の座席を配慮している。職員が利用者に積極的にコミュニケーションを行っている。また、仲の良い利用者同士を同じテーブルにするなど本人の希望を聞きながら支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族に対しいつも気軽に立ち寄ってくださいなどの言葉を掛けている。いつでも相談に応じることも伝えている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者との日常的なコミュニケーションから意向や希望の情報を聞き出している。 また、職員からの情報を基に、利用者の状態変化等を把握している。	職員は入居時のアセスメントで利用者の生活歴を把握するとともに、日々の生活の中で利用者とは話をしながら希望や意向を把握しているほか、家族等から話を聴いて把握に努めている。 意思疎通が困難な利用者の場合は表情やしぐさから判断するほか、職員が利用者一人ひとりの目線に立って記入する「情報シート」から管理者と職員で話し合って検討している。 把握した内容は「個人ファイル」に記録するほか、職員間で知り得た情報を記録する「申し送りノート」に記載するとともに、確認後は押印して全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者に作成したカルテや独自で作成した生活歴情報シート（その人らしさをヒッキ情報シート）を基に利用者一人一人の過去の生活歴や趣味、性格等を全職員が把握し日々のケアや暮らしの中に活かす努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活において一人ひとり1日の過ごし方を記録し心身状態の変化等を全職員把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書を作成する際に利用者の希望や家族の意見を聞き職員間での意見交換を行い希望に沿った介護計画を作成している。 3か月・6か月モニタリングを行い状況により介護計画の見直しを行っている。	介護計画は月1回カンファレンスを実施し、利用者や家族等、主治医、職員の意見を取り入れて作成するとともに、利用者や家族等に説明して書面で同意を得るほか、同意書に家族等の要望欄を設け、次回の介護計画作成に向けて要望が把握できるよう工夫している。 利用者のニーズが十分に抽出されるよう、職員は利用者一人ひとりの情報を「情報シート」に記入しているほか、家族等の来訪時に「その人らしさをハッキ情報シート」に記入してもらい、全職員で話し合っている。 3ヶ月毎にモニタリングを実施し、3ヶ月から6ヶ月毎に介護計画を見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、その都度現状に即した介護計画に見直し、利用者や家族等の確認を得ている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録を基に定期的に見直しをするとともに、利用者の状況に変化が生じた場合は、随時家族と面談やアセスメントを行い介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護との連携を図るとともに、医療連携体制加算を活用し利用者や家族の状況や要望にそって柔軟に支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの活用で楽しまれたり、防犯パトロール活動に参加し、人の役に立つことを喜ばれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に通常の受診等については連携医療機関でよいか家族に話をしている。今までのかかりつけ医を受診される場合はご家族に協力して頂き、こちらでの生活状況を書面などで報告している。	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医への受診が可能なことや、協力医療機関の医師をかかりつけ医にできることを説明し、希望を確認している。 入居前からのかかりつけ医への受診は家族等の付添いを基本とし、受診時には利用者の状態を家族等に伝えたり、利用者の体調をメモに書いて医師に渡してもらったりしている。 月2回協力医療機関の医師により訪問診療や週2回協力医療機関の看護師による健康管理をしている。 受診結果は家族等にその日のうちに電話で報告するとともに、「個人ファイル」と「申し送りノート」に記録し、全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の週2回の往診がある。毎朝看護師から連絡があり報告している。入居者全員とコミュニケーションを図り健康管理に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した時は病状により早期退院や再入所できるよう看護師が病院とホームの間に立ち連絡調整を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族等と早い段階で希望を伺い、医師、看護師と連携をとりながら職員全員希望に添ったケアを配慮し支援している。	契約時に利用者や家族等に重度化や終末期に向けた事業所の対応指針を説明して同意を得ている。 重要事項説明書に記載されている「看取りに関する指針」には、事業所の看取り体制や関係者の役割、介護の支援内容などが詳細に記載されており、利用者や家族等にも分かり易い指針となっている。 事業所は看取り介護の経験があり、利用者や家族等の段階毎の意思確認や支援内容などを記録に残している。 全職員は看取り介護の経験があり、その経験をもとに定期的に看取り介護について話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が普通救命講習を受講しており、急変時の対応が出来るようにしている。講習については2～3年の間隔で定期的を受講するようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署との協力をお願いしており市の消防署立ち入りのもと避難訓練を実施している。又地域の消防団に火災時協力をして頂く様体制が整っている。	避難訓練は消防署立会いのもと地域住民の協力を得ながら年2回実施し、うち1回は夜間想定避難訓練を実施しているほか、訓練の反省点や今後の課題などを話し合っている。 避難訓練の実施記録を作成し、訓練の手順内容と総評を記載しているが、参加者名や反省点、今後の課題を記録に残すまでには至っていない。 災害時には地域消防団が応援に来てくれることとなっている。 災害時に備えて米や毛布、リハビリパンツなどを備蓄しているほか、非常時にはスプリンクラー用の加圧送水装置が飲料水として利用可能となっている。	避難訓練の参加者がわかるよう実施記録に参加者名を記載するとともに、訓練の反省点や今後の課題を記録に残すことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は接遇の研修を受けており、マニュアルも作成している。利用者のプライドを傷つけない対応に配慮するとともに個人情報も鍵のかかる場所に保管してある。	管理者と職員は利用者の呼び方や言葉遣いなどに気を配り、利用者が言われたくないことを言わないように意識するなど、利用者一人ひとりの尊厳を大切に考えて支援している。職員はトイレ誘導時に利用者に小声で声をかけ、トイレのドアを閉めて扉の外で待つなど、プライバシーに配慮した対応に努めている。契約時に書面で個人情報の使用目的を説明して同意を得ているほか、個人情報に関する書類は事務所の施錠ができる書棚に保管し、情報漏洩に留意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において、事前に利用者の希望を聞いて検討し希望に添った対応をするよう努めているが、重度の認知症の方が多く、買い物や外食など自己決定している利用者が少ない。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせた生活を支援している。カラオケで楽しんだり、パトロールで社会の役に立っている事を実感したり、その人らしく暮らせるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	有償ボランティアの理容師がホームを訪問しており、2か月に1回は散髪を行っている。又希望する利用者には家族または職員が付き添い地域の美容院を利用している。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員の雰囲気づくりとして利用者に配膳調理や味付け膳など出来る事を担ってもらえるよう支援している。	献立は利用者の希望を聴きながら管理者が作成し、職員が食材の買い出しと調理をしている。利用者は職員と一緒に調理の下準備やおしぼりたたみ、下膳など、できる範囲で行っている。自家菜園で収穫したトマトやきゅうり、レタス、じゃがいも、茄子、えんどうまめ、小松菜、かぶ、さつまいも、ほうれん草などの新鮮な野菜を食材に取り入れている。行事時には特別食を提供したり、外食をしたりするなど、食事が利用者の楽しみなものとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分チェックを行っている。水分があまり摂れない場合は、個別の水分チェック表を基に、促している。食事が食べれない場合はご本人の好むもので食事量を増やしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後声掛けを行ったり介助をする事で歯磨きを行っている。寝る前の入れ歯の消毒を行っている。口腔内に異常がみられた場合は、連携医療機関を受診相談し指導を仰いでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	おむつだけに限らず排泄パターンを調べ定時でトイレ誘導を行っている。	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、タイミングを見計らってトイレ誘導をしているほか、パッドやリハビリパンツを使用して排泄の自立に向けた支援をしている。夜間もトイレ誘導を行ったり、ポータブルトイレを利用したりして、おむつを使わないよう支援している。失敗した場合は周りに気付かれないようさりげなくトイレや風呂場に誘導し、利用者の自尊心を傷つけないよう配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く摂れる食事の配慮している。水分を多く摂れるよう促している。又午後の体操を行い配慮している。野菜や水分を多く摂れる献立を考え、毎日の体操や散歩に参加して頂けるようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴表を作成し表に基づいて入浴を行っているが、希望があれば優先的に支援している。 菖蒲湯やゆず湯など季節感を味わい楽しく入浴できるよう工夫している。	風呂は毎日沸かして週3回を目安に入浴日を設けているが、利用者の状態や希望にそって入浴日や時間帯を変えたり、シャワー浴や足浴など、個々に応じた支援をしている。 入浴を嫌がる利用者には無理強いせず、職員や時間帯を変えたり、利用者の興味のある話をしながらさりげなく風呂場へ誘導しているほか、「綺麗になりましょう」や「雷が来ると風呂に入れなくなるから今のうちに入りましょう」など、声かけに工夫をして入浴ができるよう支援している。 柚子やバラの花びらを入れて入浴に季節感を取り入れたり、温泉気分が味わえるよう入浴剤を使用したりして、入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	シーツ交換、布団干し等寝具を清潔に保ち、安眠にむけて支援している。 昼食後など、1時間でも寝てもらおう心がけたり、散歩や日光浴を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの「内服ファイル」に基づき「チェックリスト」を利用して薬の目的や用法・用量を確認し、医師の指示通りの服薬を行うと共に服薬後の変化について確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームの畑で野菜を栽培しており実りの成長を外へ出た時など利用者と確認し収穫の際には利用者と共にいき新鮮なうちに食し喜びを分かち合っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人での外出は基本的に行っていないが、敷地内は自由に活動してもらっている。家族との外出はいつでも出来るようになってきている。また、個別で映画に出かけたり、外食へ行く計画を頻回に立てている。	天気の良い日には事業所周辺を散歩や外気浴ができるよう支援しているほか、駐車場に椅子とテーブルを配置して昼食やお茶の時間を楽めるよう支援するなど、利用者が気軽に外気にふれられるよう支援している。 ドライブを兼ねた外出を支援したり、近隣の公園でチューリップや桜を鑑賞できるように支援しているほか、牛久観光あやめ園での紫陽花や菖蒲の鑑賞、牛久大仏での花見などを行事に取り入れ、四季の移り変わりを肌で感じたり、気分転換ができるよう支援している。 職員は事前に外出場所のトイレや休憩場所などを下見し、利用者が安全に外出ができるよう配慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での管理が出来ない方は施設で管理している。個人で所持したいと希望する方には現金を渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りは支援しているが電話をかけてる回数が多い方については家族と相談しながら対応を検討している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物や花、植物で季節感をだし家族的な雰囲気づくりをしている。	女性の利用者で「フラワーガールズ」を結成し、職員と一緒に季節の花を植木鉢に植えて玄関に飾り、明るく季節感のある空間づくりをしている。 玄関は利用者が安心して靴を履いたり脱いだりできるようにソファを配置しているほか、外から菌を持ち込まないよう消毒薬を置き、衛生面に配慮している。 居間兼食堂の高い天井には天窓を設け、自然光を取り入れるとともに、窓を開閉して換気を行い、温度調整をしている。 どの席に座っても利用者同士の顔が見えるように居間兼食堂に丸テーブルを配置し、和やかで楽しい雰囲気づくりに活かしている。 居間兼食堂の壁に行事の写真を掲示しており、利用者の様子が窺えるほか、利用者と職員と一緒にキルトで制作したバスタオル程の大きさのカレンダーを飾り、曜日の確認がし易くなっている。 風呂場の脱衣所には転倒防止のため椅子を配置しているほか、エアコンで温度調節をして利用者が快適に入浴ができるよう支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の中にもソファを置いたり玄関前に一人になれる椅子を置いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた馴染の家具を自由にお持ち込み、居心地良く生活できるよう毎日筆筒整理など環境整備をしている。	居室にはエアコンやベッド、カーテン、テレビ、空気清浄機、温度計、カレンダー、クローゼットが備え付けられている。 利用者が自分の居室が分かるよう、職員は利用者と相談しながら居室の入り口に利用者の写真を貼ったり、利用者の趣味の書道の作品を貼ったりしている。 利用者は家族等と相談しながら使い慣れた整理箱や椅子、位牌、家族の写真など思い思いの物品を持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所のわからない方へは分かりやすい看板を作成したり、安全に移動ができるよう、危険物や障害物のないよう配慮している 各居室前に写真を飾っている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム楓

作成日 平成26年3月17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の出席者が明確に分かるよう出席者名を記録に残す。	毎回開催した運営推進会議の議事録に出席者名を記載する。	H25. 12月に開催した運営推進会議から議事録へ出席者名を記載した。	1ヵ月
2	35	避難訓練実施記録へ参加者名を詳しく記載する。	毎回避難訓練実施記録へ参加者名を記載する。	H26. 4月に計画している避難訓練から実施記録へ参加者名を記載する。	5ヵ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。